

家畜衛生 いずも

H26年度 No.3

2014. 12月



島根県東部農林振興センター出雲家畜衛生部(出雲家畜保健衛生所)

〒699-0822 出雲市神西沖町 918-4 TEL(0853)43-7900 FAX(0853)43-2801

★渡り鳥の糞便から、鳥インフルエンザウイルスが検出されました！

安来市において、11月3日に回収されたコハクチョウの糞便2検体から鳥インフルエンザウイルス(H5N8亜型)が検出され、今秋以降、本病のウイルスが我が国で野鳥において初めて確認されました。

平成22年(2010年)11月に島根県の養鶏農家で高病原性鳥インフルエンザ(H5N1亜型)が発生し、その後平成23年3月までに本県での発生を含め全9県、24戸で発生が確認されたときも、韓国で同じ亜型の鳥インフルエンザが大発生しており(左下図参照)、また、国内の16県で野鳥から分離されています。

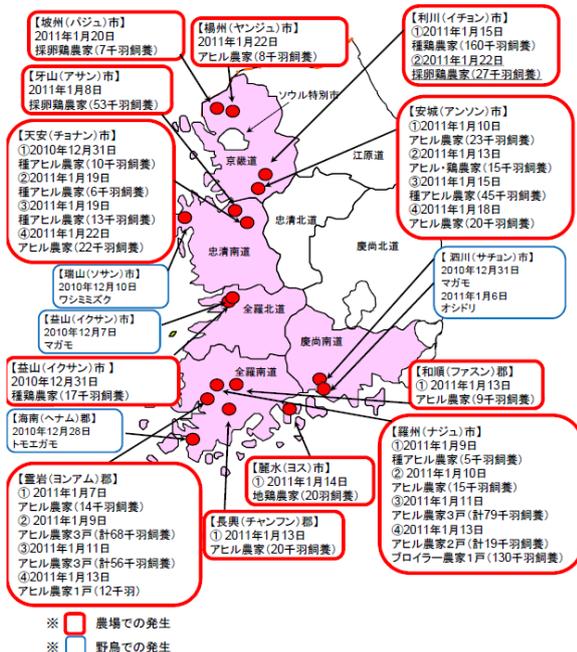
本年も、1月以降、韓国西部を中心にH5N8亜型の鳥インフルエンザが大発生しています(右下図参照)。また、今回の安来での事例以降、宮城県と千葉県で野鳥あるいは野鳥の糞便からウイルスが検出されており、このうち千葉県の事例も安来市と同じH5N8亜型で、韓国で発生しているのと同じ亜型のウイルスでした。

これらのことから考えると、現在の状況は、平成22~23年の状況と非常に類似しており、国内の養鶏農家における侵入リスクは最大限高まっている状況と考えられます。

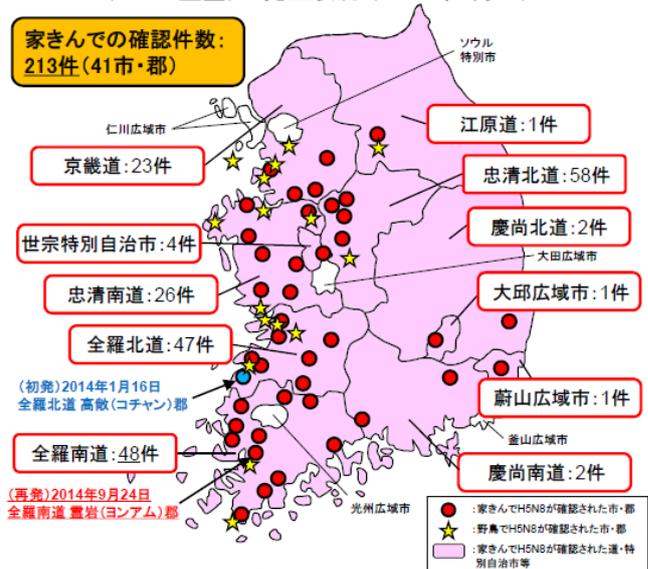
養鶏農家及び関係者の皆様におかれましては本ウイルスの侵入防止に最大限の対策を取って頂きますようお願いいたします。

(前原)

韓国における高病原性鳥インフルエンザ(H5N1亜型)の発生状況(2010年末~)



韓国における高病原性鳥インフルエンザ(H5N8亜型)の発生状況(2014年1月~)



★平成 26 年度 島根県種畜共進会が開催されました！

平成 26 年度島根県種畜共進会が 10 月 25 日に快晴の下、島根県中央家畜市場で盛大に開催されました。

昨年は台風の影響で中止となり、多くの生産者並びに関係者は残念な思いをしましたが、今年はそれを取り戻すような熱気あふれる共進会となりました。

この日は県内各地から、肉用牛 47 頭と乳用種 33 頭が出品され、日頃から取り組んでいる愛牛の改良の成果を競い合いました。

当部管内からの出品牛の主な成績としては、肉用牛の部、第3区(若雌牛)の首席に奥出雲町、部田泰久さん出品の「もえか」号が、第4区(成雌牛)の首席に雲南市、角折羊子さん出品の「もんいと 515」号が選ばれました。

両牛共に体積があり均称性にも優れた素晴らしい牛でしたが、輪郭鮮明さにやや欠けていたことが惜しまれ、グランドチャンピオンの受賞とはなりませんでした。

一方、乳用種牛の部は第3区(未経産牛C)の首席に出雲農林高等学校出品の「リバービレッジハイロード スタンリー フローラ」号が、第4区(経産牛A)の首席に出雲市の永瀬哲也さん出品の「エバーエンゼルTMウインドブルツクアズキET」号が、また、第5区(経産牛B)の首席並びに全区の首席からさらに選抜されるグランドチャンピオンに同じく出雲市の永瀬哲也さん出品の「リバービレッジ AJ サンチエスドリーム」号が受賞しました。

特に、グランドチャンピオンに選ばれた牛は審査員から「体貌は乳用種らしい適度な大きさと強さを持ち、肢のつきあいも良く、乳房も付着が強く、良く発達しており、経産にもかかわらず全く崩れたところが無い。」と高い評価を得ました。
(品川)



部田さんと「もえか」号



角折さんご夫妻と「もんいと 515」号



出雲農林高等学校の生徒さんと

「リバービレッジハイロード スタンリー フローラ」号



永瀬さんと「リバービレッジ AJ サンチエスドリーム」号

★家畜の医学 ～第3回 農場に忍び寄るウイルス…やっぱり怖いBVD～

牛を飼養するうえで、怖い感染症と言えば、発生即、農場封鎖そして淘汰となる口蹄疫が先ず挙げられます。口蹄疫の様なインパクトはありませんが、島根県でも毎年数件の発生があり、農場に被害をもたらすBVDV 感染症について解説したいと思います。

管内での発生例のパターンとして、導入された牛が BVD ウイルス持続感染牛(以下PI牛)であった場合が挙げられます。PI牛とは、胎子が胎齢 100 日前後の時に母牛が BVD ウイルスに感染し、胎盤感染によりその胎子が BVD ウイルスに対して免疫を持たない状態で生まれた牛のことです。PI牛は治癒しません！ 発育不良あるいは、やがて下痢・肺炎で死亡します。

PI牛は終生ウイルスを排出し続けます。そのため、農場内で下痢や肺炎の流行を引き起こしたり、妊娠牛に対しては新たなPI牛を生産させる負の連鎖を惹き起こします。また、PI牛から生まれる子牛は、必ずPI牛となります。

それでは、どのように侵入を阻止すればよいのでしょうか。

新規導入牛の中にPI牛がいる可能性があります！

導入する時は、BVD ウイルス検査をしましょう！
(1頭 900円)

検査結果が出るまで他の牛と接触させないで、別パドックにしてください。



また、万が一の侵入に備え、ワクチンにより抗体を獲得し、被害を最小限にする…といった対策が挙げられます。

「牛群が熱や下痢でザワザワするんだよなあ」、「ワクチンプログラムはどうすんだ？」等ご不明な点がありましたら、お気軽に当所までご相談下さい。(土江)

★当所でも facebook(フェイスブック)はじめます！

ご存知の方もおられるかもしれませんが、県は島根県の魅力をより広く、迅速にお伝えするために、今年の1月から公式 facebook ページの運用を始めています。ここではイベント情報をはじめ、島根に関する様々な情報を発信しています。

今後、当所もこの公式ページに、各種お知らせや家保の取り組み内容など発信していきますので、ぜひご覧ください。

この公式ページは、普段フェイスブックをご利用していない方でも、普通のホームページと同様に見ることができます。アカウントをもっている方はぜひ「いいね！」をお願いします♪

「島根県 facebook」で検索してみてください☆ (尾崎)
(<https://www.facebook.com/shimane.pref>)



★第11回全国和牛能力共進会への取り組み

前号に引き続き、第11回全共の7区・8区に係る受精卵移植の取り組み状況について11月20日現在の様子をお知らせします。

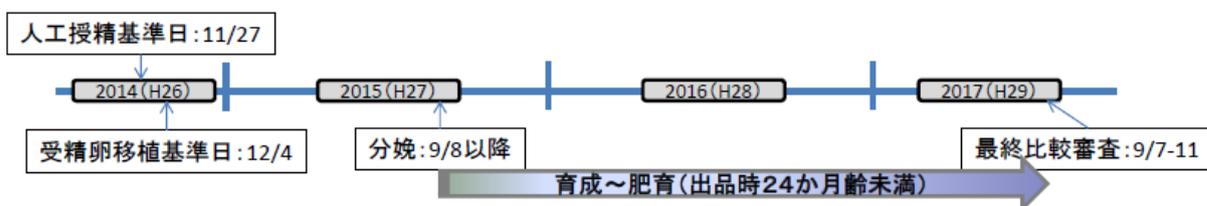
供卵牛については、予定していた12頭のうち11頭の採卵を終えたところです。授精にあたっては肥育素牛となる雄子牛を効率よく生産するため、恵茂勝又は勝照茂のSort90♂(約90%の確率で雄子牛を生産することが出来る精液)を使用するなど和牛では新しい技術を取り入れています。

供卵牛の採卵と平行して、各地区協議会は受卵牛を選定しています。今回の取り組みでは供卵牛1頭あたり12頭の受卵牛を準備しなければなりません。つまり、144頭の受卵牛を準備する必要があります。出雲家畜衛生部ではこれらの受卵牛に対し、それぞれの協議会ごとに日程をずらしながら同期化処理を終えたところ

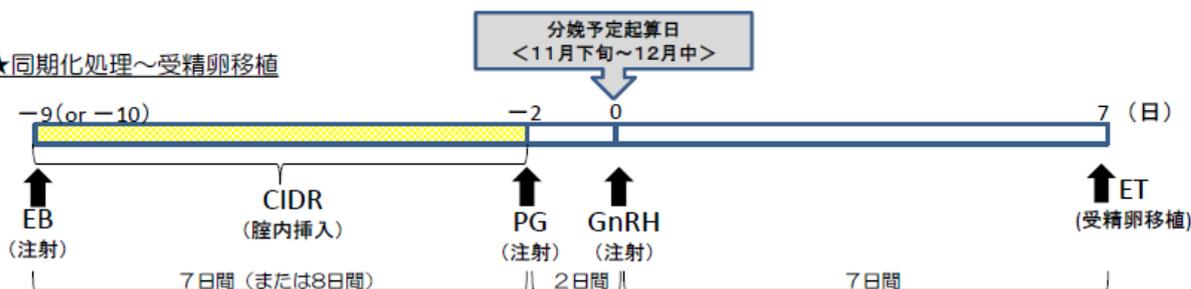
です。
さて、全共本番の取り組みに1年先行して実施されている「早期肥育技術確立支援事業現地実証2」のET産子が11月1日出雲市内で生まれました。生時体重35kg♂。防寒ジャケットを着せてもらってうれしそうに飛び回っていました。11月26日に2回目の体側を予定しています(写真) (矢田)



★肥育区(7及び8区)における出品牛生産の標準スケジュール



★同期化処理～受精卵移植



編集後記

早いもので今年もあと僅かとなりました。
先日年越しそば用に奥出雲のおそばを注文しました。やまと芋が練り込んであると書いてあったので、どんな味が楽しみです♪
みなさま良いお年をお迎えください！

(尾崎)

